

## 最近のトピックス

## 地域一般住民を対象とした摂食嚥下セミナーの紹介

## Dysphagia rehabilitation seminar for community dwelling adults

<sup>1)</sup>新潟大学医歯学総合病院 口腔リハビリテーション科

<sup>2)</sup>新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

<sup>3)</sup>新潟大学医歯学総合病院 摂食嚥下機能回復部

伊藤加代子<sup>1)</sup>, 船山さおり<sup>1)</sup>, 辻村恭憲<sup>2)</sup>, 真柄仁<sup>3)</sup>,  
辻光順<sup>3)</sup>, 酒井翔悟<sup>1)</sup>, 鈴木拓<sup>2)</sup>, 井上誠<sup>1,2,3)</sup>

Oral Rehabilitation, Niigata University Medical and Dental Hospital<sup>1)</sup>

Division of Dysphagia Rehabilitation, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences<sup>2)</sup>

Unit of Dysphagia Rehabilitation, Niigata University Medical and Dental Hospital<sup>3)</sup>

Kayoko Ito<sup>1)</sup>, Saori Funayama<sup>1)</sup>, Takanori Tsujimura<sup>2)</sup>,  
Jin Magara<sup>3)</sup>, Kohjun Tsuji<sup>3)</sup>, Shogo Sakai<sup>1)</sup>,  
Taku Suzuki<sup>2)</sup>, Makoto Inoue<sup>1,2,3)</sup>

## 【摂食嚥下セミナーの概要】

「摂食嚥下障害」や「口腔ケア」という用語は普及しつつあるが、その実態や訓練方法、ケアの方法などの具体的な情報を、地域一般住民に提供する場合は少ないのが現状である。新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野では、2015年度から毎月第2, 4週の火曜日の午後新潟大学医歯学総合病院構内のアメニティーモールにある研修室にて、「摂食嚥下セミナー」を開催している(図1)。セミナーの対象者は地域一般住民であり、事前申し込みは必要なく、無料で受講可能である。

セミナーのテーマは5つあり、「摂食嚥下の仕組み、食支援」、「摂食嚥下の訓練、食支援」、「介護食品・食器具の紹介、食支援」、「口腔ケア」、「口腔乾燥症、味覚障害」である。毎回、この5つのテーマのうち1つについて、当科スタッフが60-90分程度の講義および実習を行っている。最初の「摂食嚥下の仕組み、食支援」では、摂食嚥下の仕組みや食事の姿勢などの食事の環境設定や食後に注意すべき点について講義を行っている。2つ目の「摂食嚥下の訓練、食支援」では、嚥下障害への対応の仕方、食形態や一口量の設定等の食事の留意点について講義を行った後、種々の間接訓練を実習形式で紹介



図1 摂食嚥下セミナーの様子

している。3つ目の「介護食品、食器具の紹介、食支援」では、様々な介護食品や食器具の選び方を通じた食支援について、実際の商品を試用しながら紹介している。4つ目の「口腔ケア」では、口腔ケアの重要性や方法について講義形式で説明した後、口腔模型を用いて実際の清掃器具の扱い方までを紹介している。最後の「口腔乾燥症、味覚障害」では、口腔乾燥症や味覚障害の病態、検査方法、治療方法について紹介した後、唾液腺マッサージの実演や保湿剤の試用を行っている。参加者は、5テーマを連続して受講するのではなく、参加したいテーマの日程のみ参加することも可能である。

## 【摂食嚥下セミナー参加者に対するアンケート調査】

摂食嚥下セミナー参加者の特性、摂食嚥下セミナーに希望する事項などを調査し、今後の摂食嚥下セミナー運営の参考とするために、2015年度の参加者を対象としたアンケート調査を実施した。調査項目は、参加者の年齢、性別、職業、摂食嚥下セミナー開催情報の取得方法、摂食嚥下セミナーを受講しての感想や要望などとした。

アンケートに回答したのは、参加者75名中73名(97.3%)であった。参加者の年代は20歳代が9名(12.3%)、30歳代が12名(16.4%)、40歳代が10名(13.7%)、50歳代が24名(32.9%)、60歳代が7名(10.1%)、70歳代が10名(13.7%)で、50歳代が最も多かった。性別は男性24名(32.8%)、女性49名(67.2%)で女性の方が多かった。

参加者の職業を図2に示す。医療職が最も多く36名(50.0%)、次いで患者および患者家族は15名(20.8%)、

介護職 9名 (12.5%), その他 12名 (16.7%) であった。医療職の内訳は、歯科医師 8名 (11.0%), 看護師 8名 (11.0%), 歯科衛生士 7名 (9.6%), 言語聴覚士 6名 (8.2%) などであった。その他には、介護食品メーカー等の企業関係者、特別支援学校教諭、学生などが含まれていた。

摂食嚥下セミナーの開催情報は、病院内の掲示で知った者が 22名 (30.1%), 次いで、「にいがた摂食嚥下サポート研究会」のメーリングリストで知った者が 21名 (28.8%) などとなっていた。「にいがた摂食嚥下サポート研究会」とは、摂食嚥下障害患者の支援を目的として、当科、介護食・介護食器具等の企業、行政の産学官連携で運営している研究会であり、新潟大学医歯学総合病院

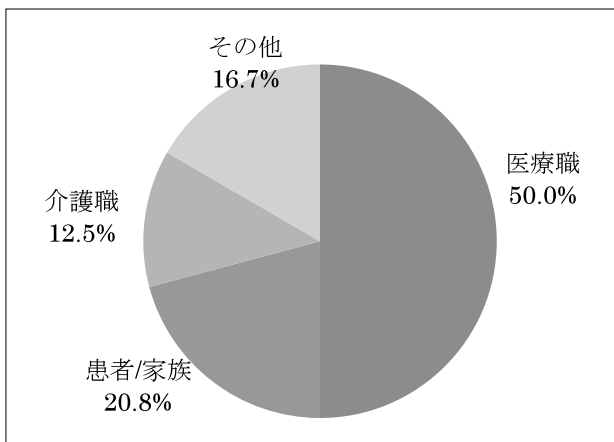


図2 摂食嚥下セミナー参加者の職業

エントランス階にある食の支援ステーションの運営や、年 2-3 回の講演会開催などを行っている。会員には、団体会員と個人会員があり、メーリングリストを作成して様々な情報発信も行っている。この摂食嚥下セミナーに興味を持ったサポート研究会の会員が参加していたと考えられる。

摂食嚥下セミナー受講が有意義であったかどうかという設問に対しては、未回答の 2名 (2.8%) を除く全員が「とても有意義だった」あるいは「有意義だった」と回答していた(図3)。また、同様に、未回答の 2名 (2.8%) を除く全員が「とてもわかりやすかった」あるいは「わかりやすかった」と回答していた。

今後、摂食嚥下セミナーで実施してほしい内容として、とろみの分量やとろみの付け方、献立の具体例、認知症や緩和ケアに関する講習、症例別の口腔ケアの方法などが挙げられていた。また、摂食嚥下セミナーの告知方法に対する希望として、本院のホームページへの掲載や特別養護支援学校への連絡などが挙げられていた。これらのアンケートの結果を受けて、2016年度は、本院口腔リハビリテーション科の患者が使用する頻度が高い歯科診療ユニットのパーテーションへのポスター掲示、本院のホームページへの掲載、特別養護支援学校へのポスター配布を行った。今後、摂食嚥下セミナーの内容なども改善する予定であり、本セミナーが、摂食嚥下障害や口腔乾燥症、味覚障害患者の一助となれるよう、努めていきたいと思っている。

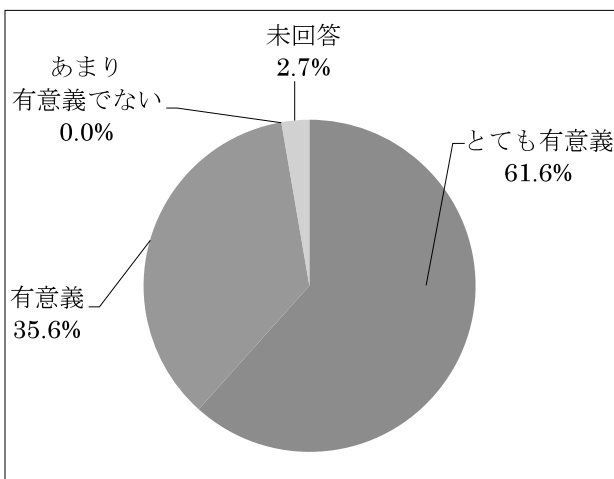


図3 摂食嚥下セミナー受講が有意義であったかどうか